

## 施策7 グローバル社会を生きるキャリア教育の推進

### 1 これまでの取組みの状況と今後の方向性

#### 【これまでの取組みや成果】

福岡の特性を生かし、福岡が輩出した人物、伝統的な行事や文化を学ぶなど、各学校において特色ある教育を推進し、地域に愛着と誇りを持つ児童生徒の育成に努めてきました。

キャリア教育については、すべての小中学校で、1 / 2 成人式や立志式を実施し、家族への感謝の心や、これからの生き方、将来の夢や目標を持つ意識をはぐくんできました。中学2年生では、職場体験学習を実施し、子どもたちの勤労観や職業観の育成及び社会と自身のつながりを見つめ直す機会としてきました。また、地元起業家による講話や、CAPSを実施し、新しいことにチャレンジする意欲の育成を図ってきました。さらに、立志応援文庫を配備することで、先人の生き方を自らの生き方の参考にすることができました。

国際教育の推進では、アクティブイングリッシュ推進事業などを実施し、児童生徒の国際理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を育成してきました。

#### 【課題や求められていること】

キャリア教育においては、これまでの取組みの成果と課題を踏まえ、系統的・発展的に取り組んでいくための、小中9年間のカリキュラムを一層明確にすることが求められます。また、児童生徒が、自ら学んだことを振り返り、新たな学習への意欲につなげ、将来の生き方を考えていく活動を充実させていくことが必要です。

グローバル人材の育成においては、郷土福岡の特性を生かした教育を推進する必要があります。また、実際に学んだ知識や技能が、自身のコミュニケーション活動に活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことで学習内容の理解が深まるなど、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを行うことが求められています。さらに、英語教育の早期化、教科化に伴う小学校教員の英語指導力の向上を図る必要があります。

#### 【今後の方向性】

キャリア教育については、特別活動を要としながら、学校教育全体を通して、見通しを持って職業的・社会的自立に向けて基盤となる資質・能力を育成することが大切です。そこで、教科等の学習指導と関連付け、自らの学びを振り返って気付いたことや考えたことなどを記述・蓄積し、成長に生かすことができるような取組みを充実させ、家庭、地域・企業等と連携及び協働したキャリア教育を推進します。

グローバル人材の育成では、引き続き、日本の文化に対する理解をはぐくむとともに、様々な価値観を認め合い、理解し合う、グローバルな資質を身に付けた児童生徒の育成に努めます。

英語教育において、小学校教員の外国語活動(外国語)の指導力向上に向けた研修の充実を図るとともに、小中高の12年間を通して、実践的なコミュニケーション活動を取り入れるなど授業の充実に努めます。

#### 主な 取組内容

- ① キャリア教育の推進
- ② グローバル人材の育成
- ③ 英語教育の推進

## 2 評価指標

指標名	指標の概要	対象	現状値 2017(H29)	目標値 2024(R6)
児童生徒の将来の夢や目標の状況(全国学力・学習状況調査)	「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小6児童	86.1%	89%
		中3生徒	73.6%	75%
生徒の英語能力の状況(英検ⅠBA)	英検3級相当以上の中学3年生の割合	中3生徒	66.2%	75%



勤労観や職業観を育成し、社会と自身のつながりを見つめ直す職場体験学習(中学校)



帽子の仕入れや販売などの経営シミュレーションを行うCAPSの授業(小学校)



## 施策8 読書活動の推進

### 1 これまでの取組みの状況と今後の方向性

#### 【これまでの取組みや成果】

「福岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭や地域と連携して子どもと本をつなぐ環境づくりを推進するとともに、市民との協働による福岡市子ども読書活動推進会議や福岡市子ども読書フォーラムを開催するなど、子ども読書活動の推進を図ってきました。

また、小中学校へ学校司書を36人配置し、小学校に隔年での配置、中学校には年間12日の支援配置を行ってきました。学校司書と司書教諭が連携して学校図書館の充実を図ることで、児童生徒が自ら図書館に足を運び、読書を楽しむ環境づくりや、小学生読書リーダーを養成し、児童の主体的な読書活動を推進してきました。

さらに、学校図書館を支援するため総合図書館内に設置した「学校図書館支援センター」が平成27年度から本格稼働し、学校図書館の運営や環境整備等に関する相談に指導・助言を行うとともに、学校の要請に応じて学習支援用図書の貸出を行うなど、連携体制を整備・強化してきました。

#### 【課題や求められていること】

学年が上がるにつれ、本を読まなくなる傾向があるため、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能をより活性化させることが必要です。また、学校図書館の活性化に向け、学校司書の配置の在り方等について検討する必要があります。

#### 【今後の方向性】

校長の方針のもと、司書教諭を中心に学校司書やボランティアも含め、学校図書館活性化のための体制を強化するとともに、新学習指導要領の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学校図書館を読書活動だけでなく、授業での活用を積極的に進め、言葉で考え、言葉で正確に理解したり、適切に表現したりする力を育成する取組みを充実させていきます。

また、学校図書館の環境を整え、児童生徒が自学の場としても活用できるよう検討していきます。

さらに、平成29年2月に策定した「福岡市子ども読書活動推進計画(第3次)」に基づき、家庭、地域、学校、図書館が連携しながら子ども読書活動の推進を図り、豊かな心の育成に取り組んでいきます。

#### 主な取組内容

- ① 子どもと本をつなぐ取組み
- ② 学校図書館の充実

## 2 評価指標

指標名	指標の概要	対象	現状値 2017(H29)	目標値 2024(R6)
児童生徒の読書活動への意識(生活習慣・学習定着度調査)	「読書が好きですか」との設問に対し、肯定的回答を行った児童生徒の割合	小5児童	80.2%	90%
		中2生徒	70.6%	90%
読書量調査(福岡市教育委員会調査、毎年11月の一か月間を調査)	1か月間の平均読書量	児童	15.8冊	17冊
		生徒	2.8冊	4.5冊
教科との関連を図る取組み(福岡市教育委員会調査)	「図書館資料を活用した授業が計画的に行われていますか」との設問に対し、肯定的回答を行った校長の割合	小学校長	85%	90%
		中学校長	42%	90%



学校図書館にある資料を活用した調べ学習(中学校)



小学生読書リーダー養成講座における読み聞かせ実習(小学校)

## 施策9 チーム学校による組織力の強化

### 1 これまでの取組みの状況と今後の方向性

#### 【これまでの取組みや成果】

校長を中心とした組織的な学校運営や指導体制を充実させるため、副校長、主幹教諭、指導教諭などの新たな職の拡充を図りました。また、小中学校間など教員の異校種間人事交流を行い、学習指導や生徒指導において異校種の手法を取り入れるなど、教員間の相互理解や連携を推進し、学校の組織力の強化を図りました。

#### 【課題や求められていること】

子どもたちを取り巻く状況の変化や様々な課題に対しては、学校全体で的確に対応することが求められます。それらの課題に対応するためには、学校組織の長である校長のリーダーシップ機能を強化することが重要です。そして、校長のリーダーシップのもと、相互に連携を深め、組織的に取り組むことができる「チーム学校」を推進し、課題を共有しながら、学校に関わる職員一人ひとりが、専門性を発揮し、その持てる力を最大限発揮していくことが必要です。

#### 【今後の方向性】

校長の適切なリーダーシップのもと、副校長・教頭、教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員などの学校の職員と、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員、学校司書などの多様な専門スタッフとの連携を進めていくとともに、自律的な学校経営を推進していきます。

それにより、学校の職員と専門スタッフが一丸となって「チーム学校」を推進し、学校の組織力を強化して、子どもたちに必要な資質・能力をはぐくむ教育課程の実現や、いじめ・不登校・虐待・貧困等の様々な課題の解決に取り組んでいきます。

#### 主な取組内容

- ① 専門スタッフとの連携
- ② 自律的な学校経営の推進

## 2 評価指標

指標名	指標の概要	対象	現状値 2017(H29)	目標値 2024(R6)
学校が組織として対応すべき課題等についての共有化の取組状況（全国学力・学習状況調査）	「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか」との設問に対し、「よくしている」「どちらかといえばしている」と回答した校長の割合	小学校長	97.2%	100%
		中学校長	95.8%	100%

